平成 30 年 3 月 15 日

平成 29 年度　学校関係者評価報告書

自己点検報告書に基づき、学校関係者評価委員会において、次のとおり評価した。

《評価委員》

北田委員（きただ治療院）　福末委員（古都治療院）　山内委員（やまうち治療院）
小林委員（学校長）　岩崎委員（事務部長）　松尾委員（本選教務課長）

《評価区分》

5　極めて適切に行われている　4　適切に行われている　3　普　通
2　適切にややかける　1　適切でない　ＮＡ　あてはまらない

評価項目		評価	
基準１　教育理念・目的・育成人材像			
1-1	理念・目的・育成人材像	理念である慈悲とは、慈に楽を与える、悲に苦しみを取り除くことであり、鍼灸マッサージ師が目指す理想がある。また合格率も高く、卒後研修など卒業生への取り組みも評価される。 普遍的な学校の理念の在り方と社会的情勢の変化に伴う社会ニーズを鑑みながら運営がなされている。	5
基準２　学校運営			
2-2	運営方針	評議員会、理事会において翌年度開始までに事業計画、予算案、また当該年度の決算事業報告がなされており、適切な運営がなされている。	5
2-3	事業計画	年度毎の事業計画を定めて、課題解決策をしっかりと検討している。	5
2-4	運営組織	学内における最高意思決定機関として学校運営会議を設置し、事業計画に基づき、適切に運営を行われている。運営組織図の作成により、一層の業務分担と責任をもって組織運営がなされることを期待する。	4
2-5	人事・給与制度	適切かつ公平に実施されており、問題ないと考える。	4
2-6	意思決定システム	学校運営会議、教務会議、教員連絡会議といった会議がなされており、教員や学校運営に関わる人間に意思が伝わる流れが構築されている。	4
2-7	情報システム	LAN 構築による業務の迅速化が図られていると評価する。一方、情報持ち出し､USB の扱いについては改めて教職員へのルールの周知徹底がなされるべきである。	5

基準３　教育活動			
3-8	目標の設定	新カリキュラムへの対応、独自性のあるカリキュラムの設定等、評価に値する。目標については、一義的に教育レベルの到達点を文書化することが難しい面があるため、共通言語・共通評価出来る方法の検討も必要である。	5
3-9	教育方法・評価等	カリキュラムに独自性があることや、関係団体等の外部講師への依頼、アンケートを用いた授業評価・改善等、大変評価できる。また、基礎の充実に重点が置かれていることも、評価できる。	5
3-10	成績評価・単位認定等	授業担当者による試験難易度については、引き続き検討が必要である。学会における発表や、成績の保証人への通知等は評価できる。	4
3-11	資格・免許の取得の指導体制	免許取得において、また臨床実習において十分な体制が構築されている。国家試験に合格できなかった学生へは、引き続きフォローが必要である。	5
3-12	教員・教員組織	質の高い教員・講師を確保しつつ、さらに研鑽を重ねており、学校運営の意識の高さが感じられる。	5
基準４　学修成果			
4-13	就職率	鍼灸科の就職率を高める取り組みの検討が必要である。関係団体と協力しながら、卒後の臨床実践研鑽の場を設けることにより、開業就職率の向上を目指す必要があると感じる。	4
4-14	資格・免許の取得率	全国平均を上回る合格率は評価できる。引き続き、合格率 100%を目指していくべきである。	5
4-15	卒業生の社会的評価	業界団体と協力して、同窓会「洛仁会」の活動をさらに充実させていくべきである。今後の同窓会「洛仁会」の活動に期待する。	4
基準５　学生支援			
5-16	就職等進路	マッチングセミナーの利用向上を図るべきである。また、開業を見据えて、経営部分を勉強するのも一考かと考える。	4
5-17	中途退学への対応	退学率やその理由について多方面から考察がされており、大変評価できる。	5
5-18	学生相談	対応の難しい学生の増加が想像されるが、引き続き学校・保証人で連携し、対応していくべきである。また、常時在校でなくとも、学内カウンセラー等の専門家への依頼も検討すべきである。	5
5-19	学生生活	奨学金制度の利用を促すなど、経済的に困窮しそうな生徒への支援も行えている。また、健康診断を実施し、生徒の健康にも留意できている。生徒への住環境も業者斡旋しているので、こちらも問題ないと考える。学外授業や学術大会における発表等も実施されており、表彰を受けていることも素晴らしい。	5

5-20	保護者との連携	保護者・保証人との連携もできておりこちらも問題はないと考える。	5
5-21	卒業生・社会人	卒後研修は技術向上のために、大変評価できる。同窓会「洛仁会」は発足したばかりであり、もう２年程度は様子見が必要であると考えるが、業界団体との連携が取りやすい部分でもあるので、そちらへのアプローチも検討の余地ありと考える。	4
基準６　教育環境			
6-22	施設・設備等	来校するたびに学校設備が充実している様子は拝察できる。	5
6-23	学外実習、インターンシップ等	引き続き、幅広い関係団体と連携し、多角的な学外実習を行っていただきたい。	5
6-24	防災・安全管理	防災管理者を設置されている点は評価できる。避難経路場所などを教職員・学生へ周知すべきである。落鍼などのインシデント・アクシデントへの対応は評価できる。	4
基準７　学生の募集と受入れ			
7-25	学生募集活動は、 適正に行われているか	適正に行われているが、SNS も重要な情報発信元となり得るため、さらに積極的に活用すべきである。	4
7-26	入学選考	国家試験の合格の関係もあり、学科の点数の重要性は理解するが、人格を評価する部分にも更に重点を置くべきであると考える。	5
7-27	学納金	適切な処理がなされている。	5
基準８　財務			
8-28	財務基盤	適切な処理がなされている。	4
8-29	予算・収支計画	適切な処理がなされている。	4
8-30	監査	適切な処理がなされている。	4
8-31	財務情報の公開	ホームページ等への掲載は行っていないが、財務情報の閲覧を希望する者に対しては、申請に基づき情報の公開を行っており、適切な処理がなされている。	4
基準９　法令等の遵守			
9-32	関係法令、設備基準等の遵守	関係法令を遵守し、適正な学校運営が行われている。	4
9-33	個人情報保護	個人情報については近年かなりデリケートな箇所であり、今後も継続して適切に管理していくべきである。	4
9-34	学校評価	既に評価委員制度、理事会、評議委員会とそれぞれの部分で適切に処理できるような体制である。	5
9-35	教育情報の公開	今後必要に応じて情報を公開し、ホームページ等でアピールすることによって入学者の増加も図っていくべきである。	5

基準 10　社会貢献・地域貢献			
10-36	社会貢献・地域貢献	臨床実習協力者を増やすことで、更なる地域・社会貢献に努めていただきたい。また、市民公開講座が、健康情報の発信等にもなり、地域・社会貢献を担っていると考える。これからはこのような活動を行うことが学校の広報にもなり、定員充足に繋がると考える。海外諸国の学校と交流があることは大変素晴らしいことである。	5
10-37	ボランティア活動	更にボランティア活動を増やして、外部と交流する場を増やしていただきたい。関係団体の活動への積極的な参加も検討すべきである。	4